

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第132回

東京医科歯科大学の活動報告



田上順次
(東京医科歯科大学理事・副学長(教育・学生・国際交流担当))

タイ・ベトナム等から11名の学生を受け入れて歯科研修プログラム

「活動報告」

科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」により、東京医科歯科大学歯学部では、平成29年11月13日～21日までの9日間、チュラロンコン大学(タイ)、シーナカリンウィロート大学(タイ)、ベトナム医科薬科大学(ベトナム)、インドネシア大学(インドネシア)から11名の学生を受け入れて、歯科研修プログラムを実施した。

日本の歯科医療技術は世界でもトップレベルであり、国際的に高い評価を得ている。そこで、本プログラムでは、歯科医学を学ぶ東南アジアの学生に、日本の先端歯科医療機器・材料、最新の医療技術の研修、専門分野での実習、病院診療の見学等の実践的なプログラムを提供している。また、日本を含む多国籍の学生による学術的・文化的交流を通して、将来、



文化交流会

歯科に関する国際医療ネットワークを構築することを目指している。具体的な活動内容は、以下のとおりである。第1日目は、開会式に引き続き、本学での研修スケジュールについてオリエンテーション

プログラム	
1日目	来日、開会式 オリエンテーション、キャンパスツアー
2日目	ワークショップ(KJ法) 歯科材料・医療技術に関する講義・実習
3日目	スタディツアー、歯科医療器材の会社訪問 留学相談会、文化交流会
4日目	スタディツアー、基礎分野での実習 臨床分野での病院見学
5日目	基礎分野での実習 臨床分野での病院見学
6日目	日本文化の理解、学生交流
7日目	日本文化の理解、学生交流
8日目	リサーチデイでの研究発表 修了式、レセプション
9日目	帰国

を行った。その際、英語、日本語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語からなる「5ヶ国語基本歯科用語集」を海外学生に配布して、専門用語に関する共通理解を促し、研修がスムーズに行えるように支援した。

また、日本語の基本会話や緊急時に使用できるサバイバル日本語の小冊子も配布し、危機管理対策を行った。その後、日本人学生が大学内を案内して、海外学生と交流を深める機会を設けた。

第2日目の午前中は、日本人学生と一緒にKJ法によるワークショップに参加し、少数グループで理想の歯科医師像について話し合い、その成果を全体で発表し、ディスカッションする機会を設けた。このような共同作業に参加することで、国際交流への関心が高まり、学生間の絆が強くなることを期待している。午後には、歯科材料・医療技術に関する講義や実習に参加し、日本の最先端歯科医療技術への理解を深めた。

●1泊2日のスタディツアーも

第3日目には、学術・研究都市として有名なつくば市まで、1泊2日のスタディツアーを行った。本学の大学院生(日本人および留学生)もバス旅行に参加し、歯科医療器材の製造工場・研究施設で見学や研修を行った。また、ホテルでは歯科の将来展望や、今後の大学間の連携や国際ネットワークづくりについて意見交換を行った。海外学生の出身国からの留学生や日本人学生による大学院進学への留学相談会も開かれた。寿司や天ぷらなどの日本食を満喫し、各国の歌やダンスを披露するカルチャージョーも行われ、参加者は異文化交流を楽しんだ。

第4、5日目は、基礎分野での実習や臨床分野での病院見学など、海外学生が関心のあ



ワークショップでの成果発表



歯科材料・医療技術に関する実習

る専門分野において研修を行った。その際、留学希望のある学生には担当教員と話し合う機会が設けられた。

第6、7日目は土日であり、海外学生が日本の歴史や文化を理解する日である。本学では双方の学生交流を推進しており、これまで東南アジアで研修を行った学生、今後研修を行う予定の日本人学生等が、本研修期間中に知り合った日本人学生等が、積極的に海外学生の案内役を引き受け、楽しい文化交流、学生交流プログラムを行った。

第8日目は、本学のリサーチデー開催日である。日本を含む4カ国5大学の歯科学生が自国で行った研究をポスター発表し、英語での質疑応答が活発に行われた。英語による発表や学術講演を聴くことで、海外学生だけでなく本学の学生や教員にとっても有意義なプログラムとなった。

研修プログラムの修了式では、歯学部長より修了証の授与が行われた。その後、本研修プログラムに参加した海外学生、日本人学生、教職員等が集まり、レセプションが開催された。短期



修了証授与式



リサーチデーでの研究発表

【今後の展望】
現在、東南アジアの3カ国4大学から学生を招聘しているが、今後は、国や大学を拡大して学生交流を行い、国際医療ネットワークの構築を目指していきたいと考えている。

間の研修ではあったが、学生は別れを惜しみ、連絡先を交換し、今後の継続した交流や再会を約束していた。

海外学生が所属する大学と本学とはすでに歯学部間で学術交流協定を締結しており、共同研究や教員交流はこれまでに活発に実施されてきた。本プログラムによって、学部学生や大学院学生にも交流範囲が広がり、幅広く継続的な国際交流活動が展開できるようになった。最先端の日本の歯科医療、歯科医学に触れることで、将来、本学の大学院博士課程への留学に興味を示す海外学生も数多く認められた。本プログラムは同時期に3カ国の学生を招聘して研修を行って

「プログラムの成果」

事後アンケート調査で本プログラムに対して「満足」「とても満足」と回答したのは、海外学生は100%、日本人学生は80%であった。満足できなかった日本人学生は、自らの英語能力の不足に付き、今後の英語学習への動機づけになったと回答していた。

生を招聘して研修を行って、日本を含め、有意義な多国籍間交流ができたと思われる。

事後アンケート調査で本プログラムに対して「満足」「とても満足」と回答したのは、海外学生は100%、日本人学生は80%であった。満足できなかった日本人学生は、自らの英語能力の不足に付き、今後の英語学習への動機づけになったと回答していた。